

Kansai Economic Insight Monthly

2017/12/27

Vol.56 November/December

・ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

・ レポート公開時期は毎月第4週火曜日を予定しています。

・ 執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR 数量経済分析センター長)、木下祐輔(APIR 調査役)・生田祐介・Cao Thi Khanh Nguyet・馬騰(各 APIR 研究員)及び豊原法彦(関西学院大学教授)です。

・ 本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
関西経済のトレンドとCI, CLI	2
景気の現況	3
関空モニター	9
中国景気モニター	10
主要月次統計	13
Release Calendar	14

要 旨

-景気は足下、先行きともに足踏み基調で推移か※-

- ✓ 10月の鉱工業生産指数は2カ月ぶりに前月から上昇したものの、7-9月平均と比べると下落した。近畿経産局は「生産は横ばい傾向で推移している」と判断している。
- ✓ 11月の貿易収支は10カ月連続の黒字であり、黒字幅は2カ月ぶりに前年比大幅拡大。アジアのスマートフォン市場の好調により、輸出では半導体等電子部品が増加し、輸入では通信機等が増加した。
- ✓ 11月の消費者態度指数は2カ月連続、景気ウォッチャー現状判断DIは3カ月連続で改善。気温が低く季節商品が好調だったこと、堅調なインバウンド消費などが上昇に寄与。一方、先行き判断DIはインバウンド消費の持続性への不安などから下落。
- ✓ 9月の関西2府4県の現金給与総額は7カ月連続の前年比増加。「関西コア」賃金指数も5カ月連続の同改善。実質賃金も2カ月連続で上昇しており、所得環境は改善がみられる。
- ✓ 10月の大型小売店販売額は3カ月ぶりの前年比減少。百貨店は化粧品や時計等の高額品が依然好調だが、スーパーは悪天候による来客数の減少と野菜の相場安を受け、低調であったため。
- ✓ 10月の新設住宅着工戸数は2カ月連続の前年比減少。利用関係別にみると、貸家は2カ月連続で増加したものの、持家と分譲は8カ月連続と2カ月連続でいずれも減少した。
- ✓ 10月の有効求人倍率、新規求人倍率ともに前月比改善。完全失業率も2カ月ぶりに同改善した。雇用情勢は依然堅調である。
- ✓ 11月の公共工事請負金額は2カ月連続で前年比増加したものの、季節調整値では5カ月ぶりの前月比減少となった。
- ✓ 10月の建設工事出来高は3カ月連続の前年比減少。全国と異なり、低調で推移している。
- ✓ 11月の関空を利用した訪日外客数は9カ月連続の前年比増加。また、8カ月連続で2桁増が続いており、好調である。
- ✓ 中国11月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は2カ月ぶりに改善し、16カ月連続で景気の分岐点である50を上回っているが、工業生産は2カ月連続で減速している。

※景気の基調判断はAPIR(豊原法彦関西学院大学教授)開発の関西景気動向指数(CI, CLI)に基づいている。
関西全体のCI、試作CLIの推移は2ページを参照。

【関西経済のトレンド】

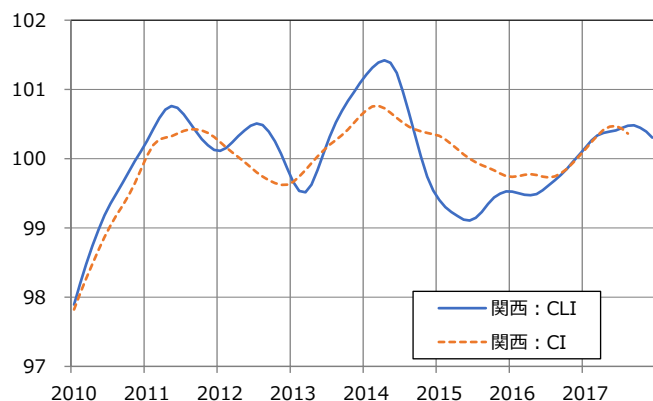
	2016年		2017年										
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
生産	↑	↑	→	↑	↓	↑	↓	↑	↓	↑	↓	↑	
貿易	↑	↑	↓	↑	→	→	→	↓	→	↑	↑	↑	↑
センチメント	↑	↑	↓	→	↓	→	↑	↑	→	↓	→	↑	↑
消費	↓	↓	→	↓	↓	→	→	→	→	→	↑	→	
住宅	→	→	↑	→	→	↓	→	↓	→	→	→	→	
雇用	↑	↑	→	↑	↑	↑	↑	↑	↑	→	↓	↑	
公共工事	↓	→	↓	↓	↓	↓	↑	↓	↓	↓	↓	↑	↑
中国	↑	↑	↑	↑	↑	→	→	→	→	→	→	→	→

(※トレンドの判断基準)

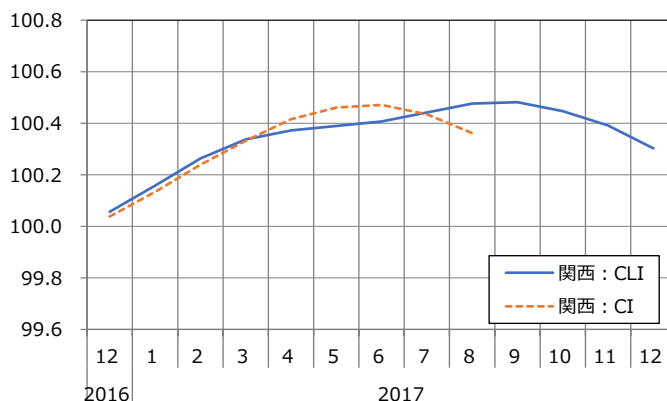
- ・**生産**: 近畿経済産業局『近畿地域工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**貿易**: 大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・**センチメント**: 内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・**消費**: 近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**住宅**: 国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**雇用**: 厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・**公共工事**: 西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI一致指数・試作 CLI)の推移】

CI一致指数・試作 CLI の推移(2010年1月~2017年12月)



直近1年間のCI・CLIの推移(2016年12月~2017年12月)



【鉱工業生産動向】

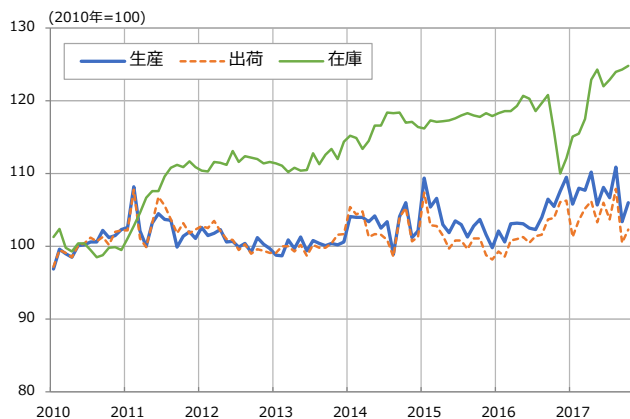
(1) 関西の生産動向

関西 10 月の鉱工業生産動向(速報値: 季節調整済、2010 年=100)によれば、生産は 106.0 で、前月比+2.5%と 2 カ月ぶりの上昇。出荷は 102.3 で同+1.8%と 2 カ月ぶりの上昇。在庫は 124.8 で同+0.4%と 4 カ月連続で上昇した。なお、生産と強い関係がある 10 月の実質輸出(季節調整済、2015 年=100)は 108.1 で、同-1.7%と 3 カ月ぶりに低下した。

業種別に生産指数をみると、はん用・生産用・業務用機械(前月比+11.2%、2 カ月ぶり)、電気機械(同+8.5%、2 カ月ぶり)、プラスチック製品(同+3.2%、3 カ月ぶり)等が増産となった。一方、情報通信機械(同-17.5%、2 カ月ぶり)、鉄鋼(同-9.1%、3 カ月ぶり)、化学(除、医薬品)(同-3.4%、2 カ月連続)が減産となった。

結果、10 月実績(生産)は 7-9 月平均比-0.9%と下落した。近畿経済産業局は 10 月の基調判断を「総じてみれば、生産は横ばい傾向で推移している」と前月から据え置いた。

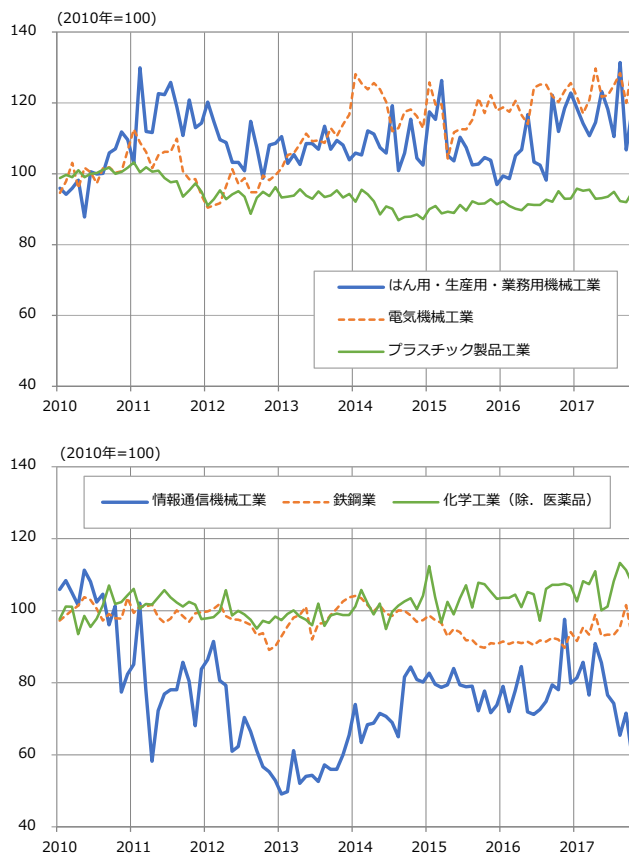
関西の鉱工業生産動向の推移(2010 年 1 月～2017 年 10 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

関西の業種別生産指数の推移(2010 年 1 月～2017 年 10 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

(2) 全国の生産動向

全国 10 月の鉱工業指数(確報値: 季節調整済、2010 年=100)を見ると、生産は 103.0 となり前月比+0.5%と 2 カ月ぶりの上昇。出荷は 98.9 で同-0.4%と 2 カ月連続の低下。在庫は 110.7 となり、同+3.2%と 6 カ月ぶりの上昇となった。

業種別にみると、輸送機械(前月比+1.1%)、電気機械(同+2.7%)、はん用・生産用・業務用機械(同+0.7%)等は増産となった。一方、化学(同-2.3%)、食料品・たばこ(同-2.9%)、石油・石炭製品(同-6.4%)等が減産となった。

製造工業生産予測調査によると、11 月は前月比+2.8%、12 月は同+3.5%と、いずれも増産が予測されている。予測が実現すれば、10-12 月期の生産は前期比+2.6%となり、前期(同+0.4%)より大幅の増産となろう。

全国の鉱工業指数の推移(2010年1月～2017年10月)



(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」, 経済産業省「鉱工業指数」

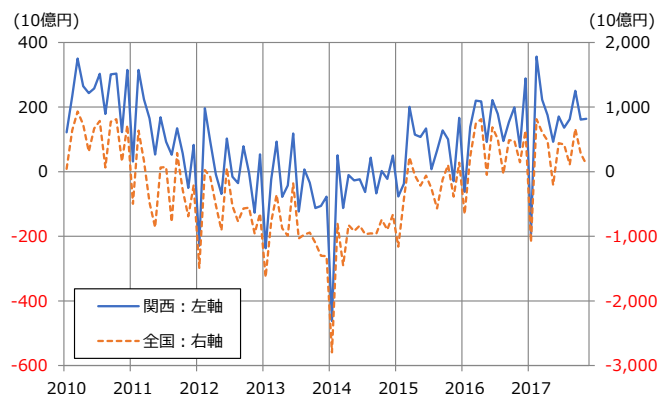
【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、関西 11 月の貿易収支は +1,638 億円と 10 カ月連続の黒字となった。黒字幅は、前年同月(+757 億円)と比べて+116.5%と 2 カ月ぶりに大幅拡大した。

また、全国の貿易収支(速報値)は、+1,122 億円と 6 カ月連続の黒字となったが、前年同月比-23.4%縮小した。

関西・全国の貿易収支の推移(2010年1月～2017年11月)



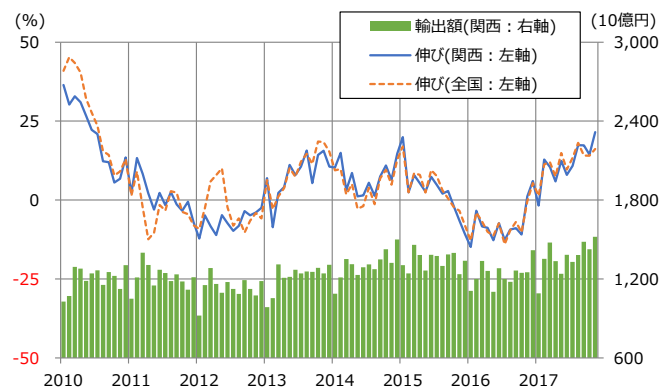
(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(2) 輸出

関西 11 月の輸出額(速報値)は 1 兆 5,202 億円で前年同月比+21.5%と 10 カ月連続の増加。財別に見れば、半導体等電子部品(過去最高額)、鉱物性燃料等が増加した。中国向けの携帯端末に使うメモリーなどが伸びた。

全国 11 月の輸出額(速報値)は 6 兆 9,210 億円で、前年同月比+16.2%と 12 カ月連続の増加。財別に見れば、半導体等製造装置、自動車、鉄鋼等が増加した。

関西・全国の輸出の推移(2010年1月～2017年11月)



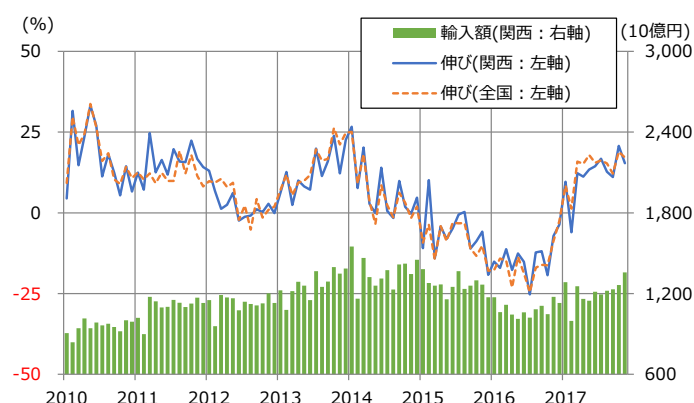
(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(3) 輸入

関西 11 月の輸入額(速報値)は 1 兆 3,564 億円、伸びは前年同月比+15.4%と 9 カ月連続の増加。財別に見れば、通信機、原油及び粗油等が増加した。中国製の携帯端末が伸びた。

全国 11 月の輸入額(速報値)は 6 兆 8,088 億円で、前年同月比+17.2%と 11 カ月連続の増加。財別に見れば、原油、通信機、及び非鉄金属等が増加した。

関西・全国の輸入の推移(2010年1月～2017年11月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(4) 関西の地域別貿易

関西 11 月の貿易収支を地域別に見ると、対アジア(含中国)の貿易収支は+2,525 億円と 10 カ月連続の黒字となり、黒

字幅は前年同月比+32.9%拡大した。輸出(1兆615億円)は10カ月連続の増加(同+23.0%)。財別に見れば、半導体等電子部品、鉱物性燃料等が増加した。輸入(8,090億円)は9カ月連続の増加(同+20.2%)。財別に見ると、通信機、がん具及び遊戯用具等が増加した。

うち、対中貿易収支は-747億円と9カ月連続の赤字となった(前年同月比+23.9%)。輸出(4,145億円)は13カ月連続の増加(同+28.3%)。財別に見ると、半導体等電子部品、通信機等が増加した。輸入(4,892億円)は9カ月連続の増加(同+27.6%)。財別に見ると、通信機、がん具及び遊戯用具等が増加した。

対米貿易収支は+747億円の黒字となり、4カ月連続の増加(前年同月比+26.8%)。うち、輸出(1,874億円)は7カ月連続の増加(同+17.0%)。財別に見れば、建設用・鉱山用機械、半導体等電子部品等が増加した。輸入(1,126億円)は12カ月連続の増加(同+11.3%)。財別に見れば、天然ガス及び製造ガス、有機化合物等が増加した。

対EU貿易収支は+109億円と8カ月ぶりの黒字となった(前年同月差+254.3億円)。輸出(1,504億円)は7カ月連続の増加(前年同月比+24.4%)。財別に見れば、遊戯用具、建設用・鉱山用機械等が増加した。輸入(1,395億円)は9カ月連続の増加(同+3.0%)。財別に見れば、非鉄金属、たばこ等が増加した。

【消費者センチメント】

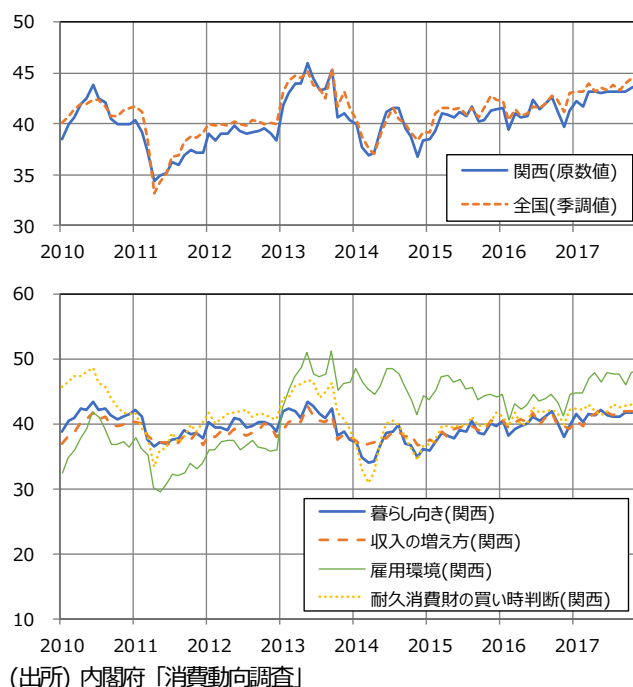
(1) 消費者態度指数の動向

関西 11月の消費者態度指数(原数値)は43.8と前月比+0.2ポイント小幅上昇し、2カ月連続の改善であった。全国(季節調整値)は同+0.4ポイント上昇し44.9となり、3カ月連続で改善した。

関西の同指数構成項目を見ると、小幅ながら4項目が全て前月から改善した。「雇用環境」は同+0.3ポイント(2カ月連続)、「耐久消費財の買い時判断」は同+0.3ポイント(3カ月連続)、「暮らし向き」は同+0.2ポイント(2カ月ぶり)、「収入の増え方」は同+0.1ポイント(3カ月ぶり)の小幅上昇であった。

また、全国の同指数は3カ月連続で4項目が全て前月から改善。項目別に見ると、「雇用環境」が同+0.6ポイント、「収入の増え方」が同+0.5ポイント、「耐久消費財の買い時判断」が同+0.4ポイント、「暮らし向き」が同+0.2ポイント、それぞれ上昇した。いずれも3カ月連続。株高による資産増や雇用環境の改善が消費者心理の改善につながったとみられる。内閣府は、消費者態度指数からみた消費者マインドについて「持ち直している」として判断を据え置いた。

消費者態度指数の推移(2010年1月～2017年11月)



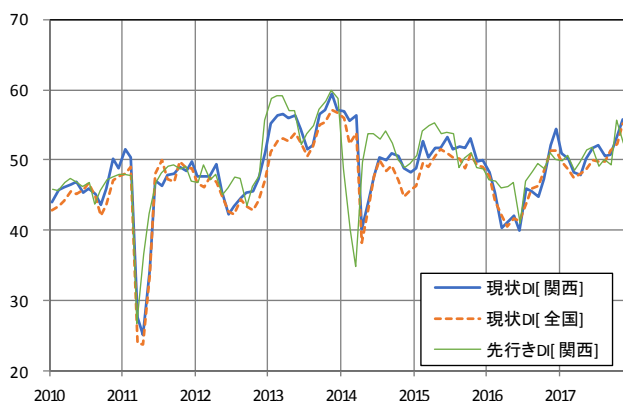
(出所) 内閣府「消費動向調査」

(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西 11月の景気ウォッチャー現状判断DI(季節調整値)は55.7と前月比+2.2ポイント上昇し、3カ月連続の改善となった。また、景況感の良し悪しの分かれ目となる50を7カ月連続で上回った。関西では例年よりも気温が低く、季節商品の売れ行きが好調であった。加えて、インバウンド消費が引き続き好調、株高による高額品消費の増加などが景況感の上昇に寄与したとみられる。また、全国の同指数は55.1と同+2.9ポイント上昇し、3カ月連続の改善であった。

一方、先行き判断DI(季節調整値)は、関西では52.4と前月比-3.3ポイント下落し、2カ月ぶりの悪化。高水準であった前月(同+6.4ポイント上昇)からの反動とみられるが、緊張する海外情勢やインバウンド消費の持続性への不安、諸物価の上昇などが消費者心理を押し下げたとみられる。全国は同-1.1ポイント下落し53.8となり、こちらも2カ月ぶりに悪化した。

景気ウォッチャー調査の推移(2010年1月～2017年11月)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

【所得・個人消費・住宅】

(1) 現金給与総額

関西2府4県の9月の現金給与総額(APIR推計)は26万8,757円で前年同月比+2.1%となり、7カ月連続の増加。府県別では、奈良県が同+5.0%(10カ月連続)、兵庫県が同+3.1%(2カ月連続)、和歌山県が同+2.5%(2カ月連続)、大阪府が同+2.0%(4カ月連続)、京都府が同+1.4%(3カ月連続)とそれぞれ増加した。一方、滋賀県は同-0.7%(3カ月連続)と減少した。また、9月の京都・大阪・兵庫の加重平均をとった「関西コア」賃金指数(APIR推計)は同+2.2%増加し、5カ月連続の改善。

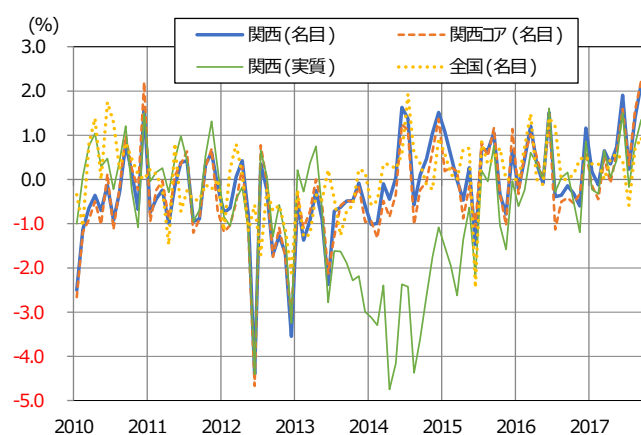
関西2府4県の現金給与総額から物価上昇分(帰属家賃を除く総合)を除いた実質賃金は前年同月比+1.3%と2カ月連続で上昇しており、所得環境は改善がみられる。

全国10月の現金給与総額(確報値)をみると、前年同月比+0.2%増加し、3カ月連続の改善。内訳をみると、所定内

給与は同+0.3%と7カ月連続の増加。所定外給与は同-0.1%と4カ月ぶりの減少。特別給与は同+0.2%と3カ月連続の増加であった。

現金給与総額から物価上昇分(帰属家賃を除く総合)を除いた実質賃金は、前年同月比-0.1%と5カ月連続の下落であった。所定内給与は緩やかな増加が続いているものの、エネルギー価格を主因とする物価上昇が続き、持続可能な実質賃金の増加につなげていない。

現金給与総額の推移(2010年1月～2017年10月)



(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2011年平均)で加重平均。

(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」、総務省「消費者物価指数」より作成

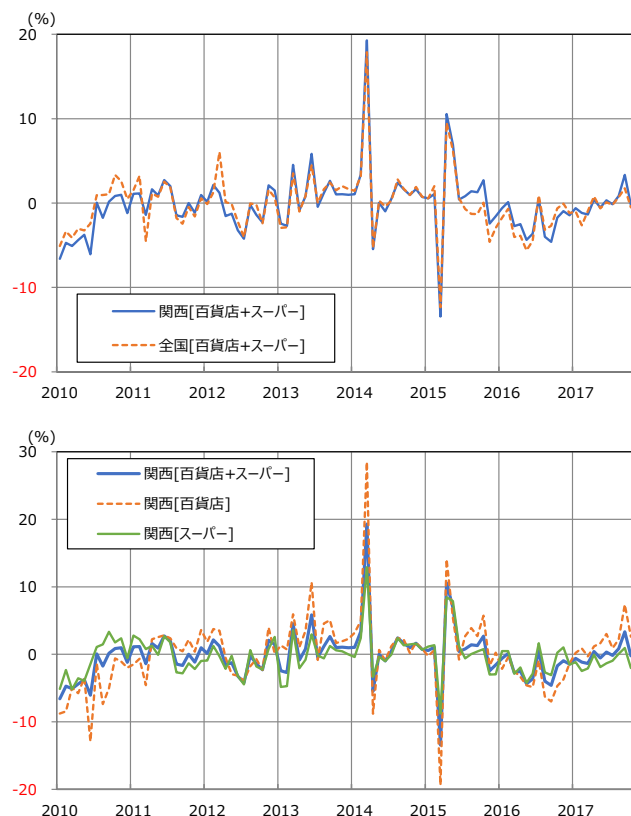
(2) 大型小売店販売額

関西10月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は3,103億円となり、前年同月比-0.2%と3カ月ぶりのマイナス。うち、百貨店は同+2.6%上昇し、7カ月連続のプラス。化粧品や時計等の高額品が、国内、インバウンド向けともに好調であった。なお、関西の百貨店免税売上(日銀大阪支店)によると、10月は前年同月比+128.1%(前月+129.7%)と12カ月連続で増加し、3カ月連続で3ケタの伸びである。また、スーパーは同-2.0%と3カ月ぶりのマイナス。悪天候による来客数の減少に加え、野菜の相場安も影響した。

全国10月の大型小売店販売額(全店ベース)は1兆5,889億円、前年同月比-0.5%と3カ月ぶりのマイナスであった。

うち、百貨店は同-1.5%と3カ月ぶりのマイナス。また、スーパーは同-0.0%の横ばいとなった。小売業販売額(季節調整値、後方3カ月移動平均)は前月比-0.3%の低下となった。経済産業省は基調判断を「持ち直しの動きがみられる」と前月から据え置いた。

大型小売店販売額の推移(2010年1月~2017年10月)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(3) 新設住宅着工の動向

関西10月の新設住宅着工戸数は12,164戸と前年同月比-1.5%となり、2カ月連続の減少となった。全国は83,057戸で同-4.8%と4カ月連続で減少した。

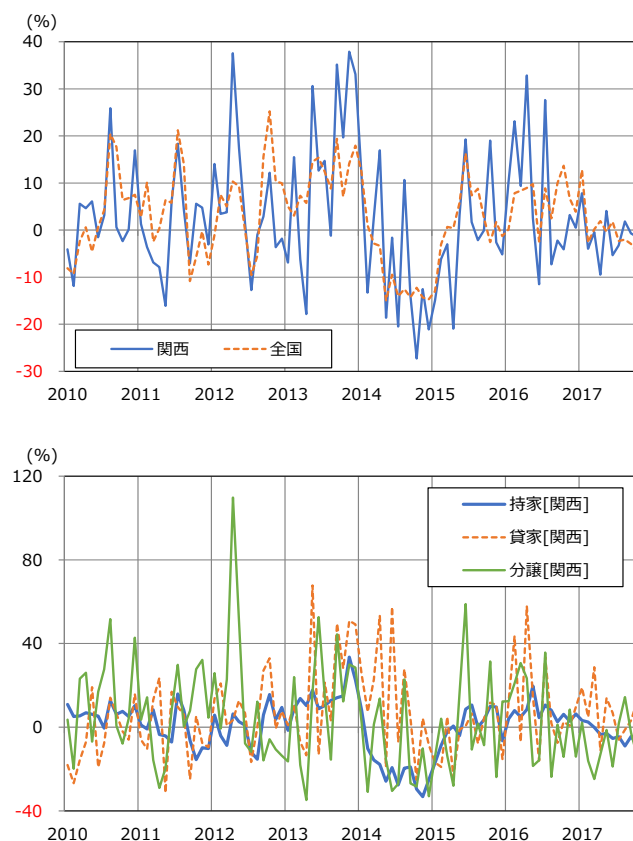
関西の住宅着工戸数を利用関係別にみると、持家は3,063戸で前年同月比-8.4%と8カ月連続の減少。貸家は5,711戸で同+12.7%と2カ月連続の増加。分譲は3,322戸と同-14.1%と2カ月連続の減少であった。

全国では、持家、貸家、分譲すべての項目で前年同月を下回った。持家は24,807戸で同-4.8%と5カ月連続の減少、貸家は38,017戸で同-4.8%と、いずれも5カ月連続

の減少。分譲は19,588戸と同-4.8%減少し、2カ月連続の減少であった。

関西11月のマンション契約率は、76.4%(季節調整値：APIR 推計)と、好調の指標となる70%を14カ月連続で上回り、引き続き好調な市況が続いている。前月比では+1.9%ポイントと、3カ月ぶりの上昇となった。首都圏は66.5%(季節調整値：APIR 推計)と同+1.1%ポイント上昇し、こちらは3カ月ぶりの改善となったが、6カ月連続で70%を下回る状況が続いている。

新設住宅着工戸数の推移(2010年1月~2017年10月)



(出所) 国土交通省「住宅着工統計」

【雇用動向】

(1) 求人倍率の動向

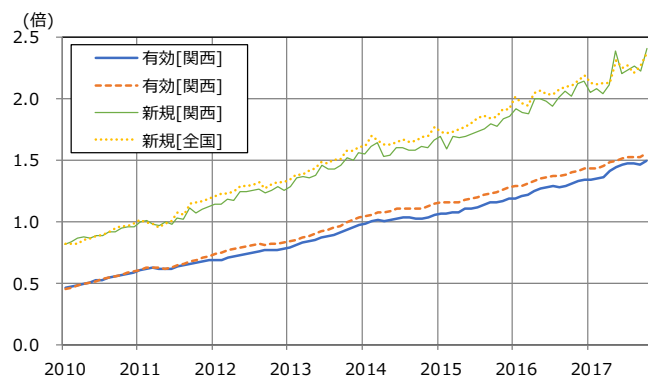
関西10月の有効求人倍率は、1.49倍で前月比+0.03ポイント上昇し、3カ月ぶりの改善。内訳をみると、有効求人数が同+1.3%と3カ月ぶりに増加する一方で、有効求職者数が同-0.8%と2カ月ぶりに減少し、全体を押し上げた。依

然として労働需給は非常に引き締まった状態が続いている。全国は1.55倍と同+0.03ポイント上昇し3カ月ぶりの改善となり、1974年2月(1.53倍)を超え、1974年1月(1.64倍)以来の高水準であった。

また、関西の有効求人倍率は全ての府県で上昇した。大阪府が前月比+0.06ポイント、和歌山県が同+0.03ポイント、滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県では、いずれも同+0.01ポイント小幅上昇した。

関西10月の新規求人倍率は、2.41倍で前月比+0.19ポイントと2カ月ぶりの大幅上昇。新規求人数が同+1.1%増加した一方で、新規求職者数は-6.9%と大幅に減少したため。また、全国は2.36倍で同+0.10ポイント上昇し、2カ月連続の改善であった。

求人倍率の推移(2010年1月～2017年10月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(下表も同様)

関西2府4県有効求人倍率(2017年9-10月)

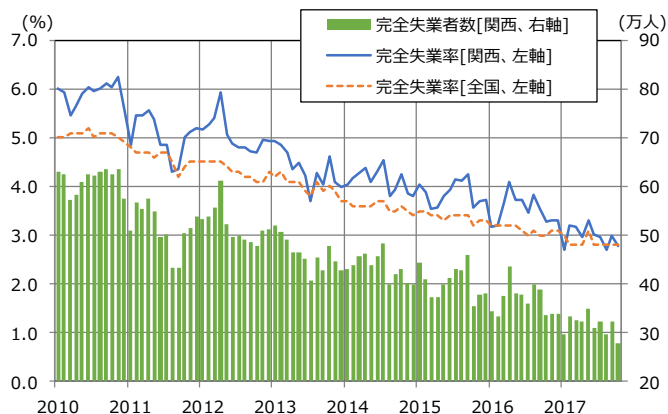
	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
9月	1.52	1.46	1.32	1.50	1.59	1.30	1.37	1.24
10月	1.55	1.49	1.33	1.51	1.65	1.31	1.38	1.27
前月差	0.03	0.03	0.01	0.01	0.06	0.01	0.01	0.03

(2) 完全失業率の推移

関西10月の完全失業率(季節調整値:APIR推計)は2.8%と前月比-0.2%ポイント低下し、2カ月ぶりに改善した。非労働力人口が2カ月連続で増加し、就業者数は2カ月連続で減少しているが、求人倍率が好調であることから、雇用は引き続き堅調である。また、関西の完全失業者数(季節調整値:APIR推計)は27.9万人で前月から-4.4万人減少し、2カ月ぶりの改善であった。

全国10月の完全失業率(季節調整値)は2.8%と、4カ月連続の前月比横ばい。2%台後半の失業率が定着している。完全失業者数(季節調整値)は187万人で前月から-1万人小幅減少した。理由別にみると、「非自発的な離職」は同+1万人増加、「自発的な離職(自己都合)」が同-7万人減少、「新たに求職」は+4万人増加した。

完全失業率の推移(2010年1月～2017年10月)



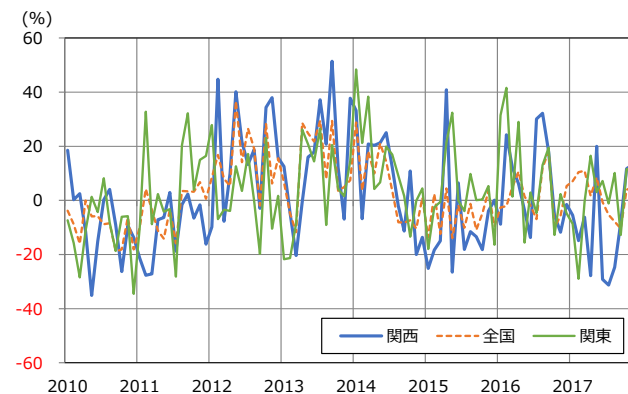
(出所)総務省「労働力調査」

【公共投資】

(1) 公共工事請負金額

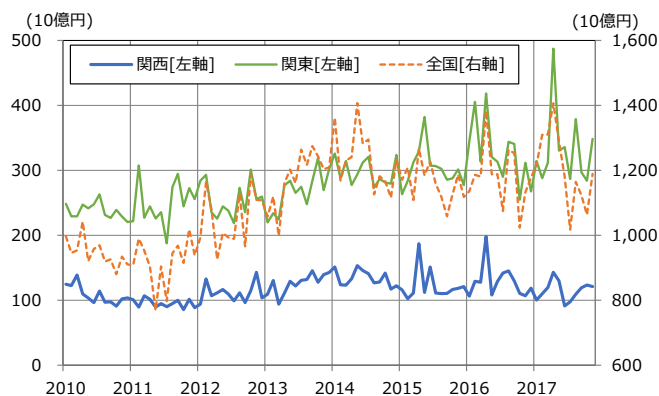
関西11月の公共工事請負金額は854億円で前年同月比+13.2%と2カ月連続の増加。全国は8,633億円で同+5.0%と2カ月連続の増加。関東は2,749億円で、同+11.8%、2カ月連続の増加であった。一方、東北は1,297億円で同-17.3%と減少し、5カ月連続のマイナス。

公共工事請負金額(伸び率)の推移(2010年1月～2017年11月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証償付」

公共工事請負金額(季節調整値)の推移(2010年1月～2017年11月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

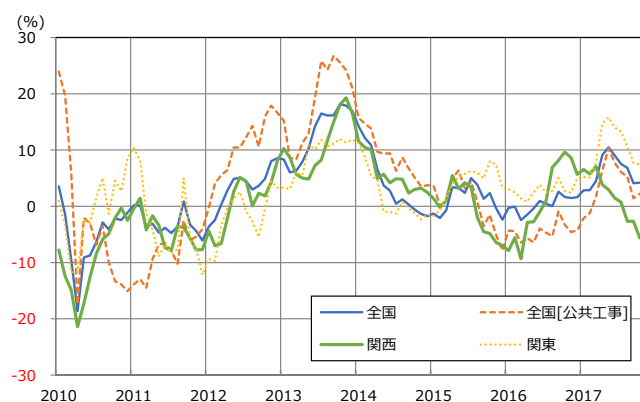
季節調整値(APIR 推計)で見ると、関西は前月比-2.2%となり、5 カ月ぶりの減少。全国は同+11.8%と 3 カ月ぶりの増加であった。

(2) 建設工事

関西 10 月の建設工事出来高は 5,479 億円となり、前年同月比-5.6%と 3 カ月連続の減少。関東は 1 兆 6,869 億円で、前年同月比+7.4%と、2015 年 3 月以来、32 カ月連続で増加が続いている。一方、東北は 5,799 億円で同-1.9%となり 2015 年 11 月以来、24 カ月連続で減少が続いている。

全国 10 月の建設工事出来高は 4 兆 9,026 億円となり、前年同月比+4.2%と 17 カ月連続の増加。うち、公共工事は 2 兆 439 億円で同+2.2%と、8 カ月連続の増加。関西の建設工事は、全国と異なり低調で推移している。

建設工事出来高の推移(2010年1月～2017年10月)



(注) 2016 年 4 月分より新推計に基づく出来高の参考値を反映。

(出所)国土交通省「建設総合統計」

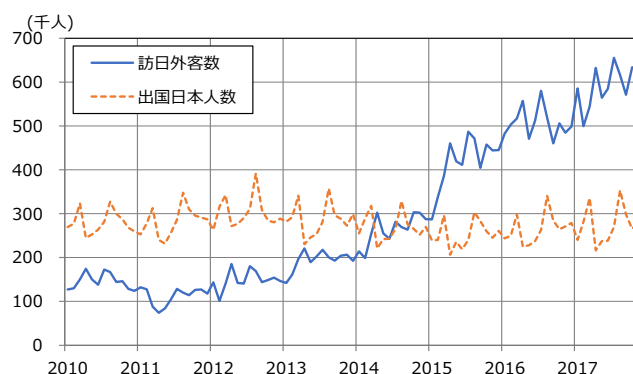
【関空モニター】

(1) 訪日外客数トレンド

訪日外客数、出国日本人数ともに増加が続いており、好調である。

11 月の関空への訪日外客数は 63 万 1,960 人となり、前年同月比+30.5%と 9 カ月連続で増加した。また、8 カ月連続で 2 桁増加が続いており、伸びも加速している。また、出国外国人数は 61 万 8,820 人と同+28.3%増加しており、外国人旅客総合数(出入国合計)は 125 万 780 人と同+29.4%増加した。また、出国日本人数は 28 万 1,550 人で、前年同月比+4.0%と 7 カ月連続で増加した。

訪日外客数と出国日本人数の推移(2012年1月～2017年11月)



(出所) 一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

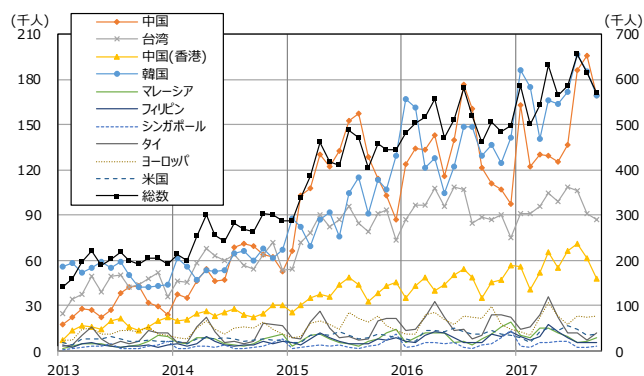
(2) 地域別訪日外客数

訪日外客数を地域別にみると、9 月は韓国からの入国者数が 16 万 9,712 人(前年同月比+31.1%)と最も多く、次いで、中国(香港除く)が 16 万 9,624 人(同+39.6%)、台湾が 8 万 6,947 人(同-1.6%)、香港が 4 万 7,803 人(同+36.5%)であった。韓国からは増便の影響もあり、7 カ月連続で 2 桁の伸びが続いており、中国を抜き 2 カ月ぶりに最多となった。

他のアジア各国からの入国者数は、タイが 1 万 1,604 人(前年同月比+12.1%)、マレーシアが 8,968 人(同+16.6%)、フィリピンが 5,638 人(同+3.9%)、シンガポールが 3,501 人(同-5.7%)であった。

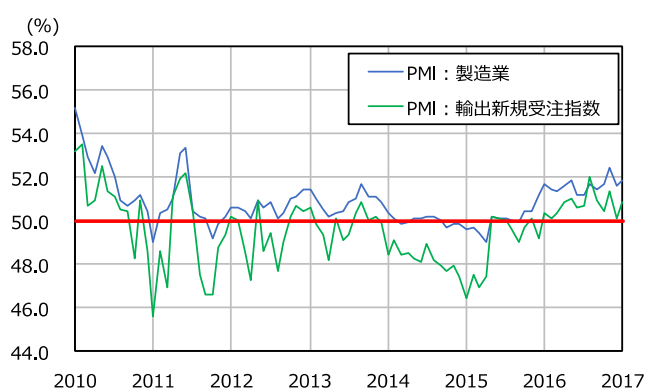
他地域を見ると、欧州全体では 2 万 2,784 人(前年同月比+7.1%)、米国が 1 万 1,120 人(同-2.0%)であった。

地域別訪日外客数(右軸：総数、左軸：各国、2017年9月まで)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

中国製造業購買担当者景況指数(2017年11月まで)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

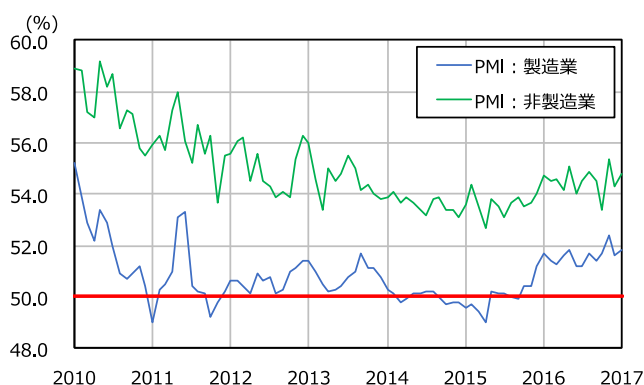
【中国景気モニター】

(1) センチメント

11月の製造業の購買担当者景況指数(PMI)は51.8となり、前月より+0.2ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善。16カ月連続で景気分岐点である50を上回った。また、非製造業PMIは54.8となり、前月から+0.5ポイント上昇し、こちらも2カ月ぶりの改善であった。

製造業PMIのうち、生産指数は54.3となり、前月比+0.9ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善。輸出新規受注指数は50.8となり、同+0.7ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善。雇用指数は48.8となり、同-0.2ポイント下落し、2カ月ぶりの悪化であった。

中国製造業・非製造業購買担当者景況指数(2017年11月まで)

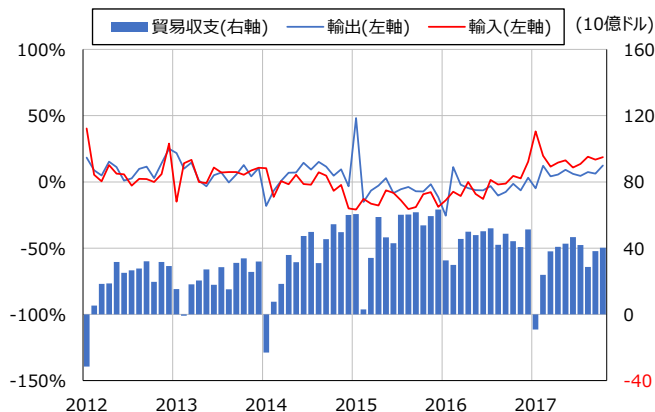


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(2) 貿易動向

11月の貿易収支(速報値、ドル・ベース)は+402.1億ドルとなった。黒字幅は前年同月より-40.2億ドル縮小し、16カ月連続でマイナスが続いている。うち、輸出額は2,173.8億ドルとなり、同+12.3%増加し、9カ月連続のプラス。輸入額は1,771.7億ドルとなり、同+18.7%増加し、13カ月連続のプラス。

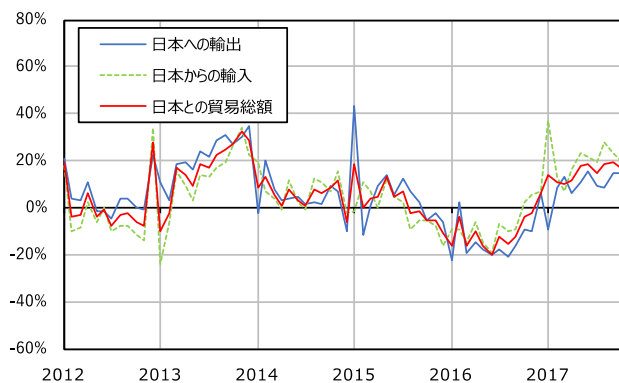
中国の貿易動向(前年同月比：ドル・ベース)(2017年11月まで)



(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

また、対日貿易収支は-21.4億ドルとなり、10カ月連続の赤字となった。対日輸出額は133.5億ドルとなり、前年同月比+9.8%と、9カ月連続の増加。一方、対日輸入額は154.9億ドルとなり、同+14.7%と16カ月連続で増加した。なお、円ベースでみると、対日輸出額は同+14.6%と、9カ月連続の増加。対日輸入額は同+19.8%と、13カ月連続の増加であった。

日本との貿易 (前年同月比 : 円ベース) (2017 年 11 月まで)



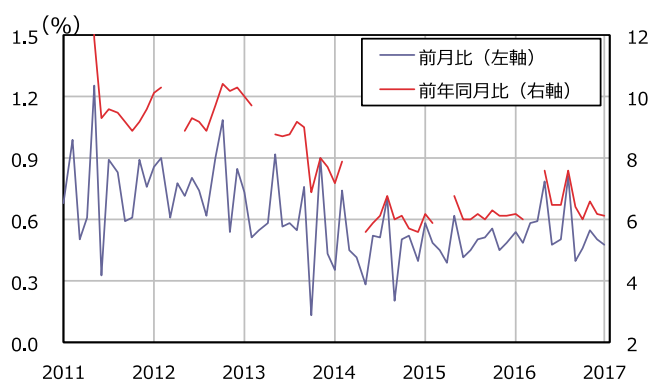
(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

(3) 工業生産

11 月の工業生産は前月比+0.48%となり、伸びは前月から-0.02%ポイント低下し、2 カ月連続の減速。また、前年同月比では+6.1%となった。

産業別に見ると、パソコン・通信設備製造業(前年同月比+15.0%)、医薬製造業(同+13.6%)、電気機械・機材製造業(同+10.5%)などが高い伸びを示す一方で、非金属鉱物製品製造業(同+2.6%)、繊維工業(同+2.0%)、有色金属圧延加工業(同+1.6%)は比較的低調な伸びにとどまった。また、鉄鋼などの精錬・圧延加工業(同-2.8%)は3 カ月連続の減産であった。

工業生産指数(2017 年 11 月まで)



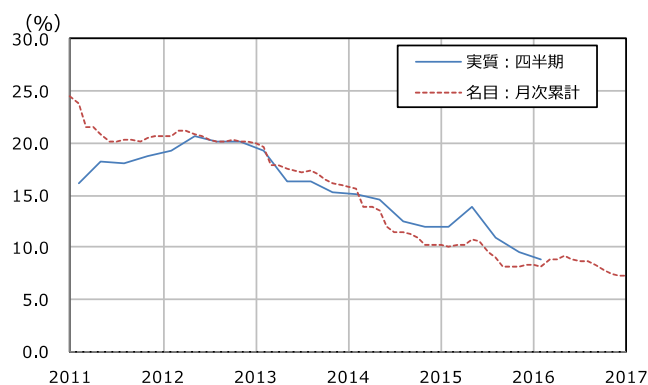
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(4) 固定資産投資

1-11 月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同月比+7.2%となり、1-10 月期(+7.3%)と比べて-0.1%ポイント低下し、5 カ月連続で減速した。

産業別に見ると、第1次産業は前年同月比+11.4%で伸びは前月から-1.7%ポイント下落。第2次産業は同+2.6%となり、前月から-0.1%ポイント下落した。いずれも2 カ月ぶりの悪化。一方、第3次産業は同+10.1%となり、前月から+0.1%ポイント小幅上昇し、10 カ月ぶりの改善であった。

固定資産投資 (2017 年 11 月まで) (累積伸び率)

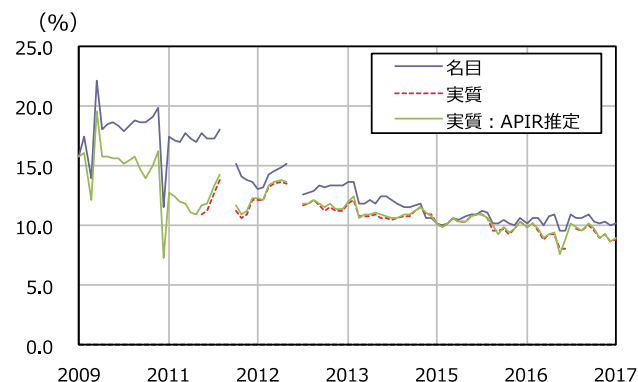


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(5) 消費

1-11 月期の社会消費品小売総額(名目)は前年同月比+10.2%となり、伸びは前月(同+10.0%)より+0.2%ポイント小幅上昇した。2 カ月ぶりの加速。

社会消費品小売総額成長率の推移 (2017 年 11 月まで)



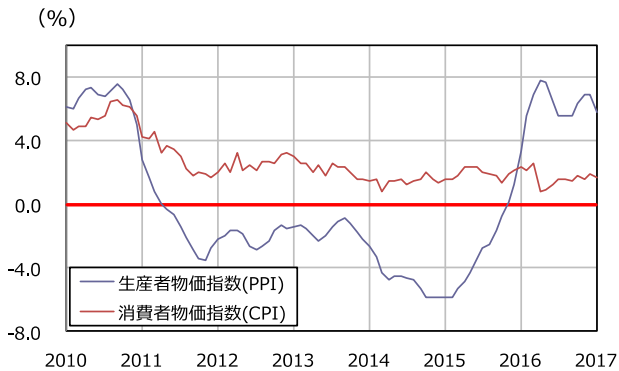
(注) APIR 値は小売価格指数を用いて計算した値

(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(6) 物価水準

11 月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+1.7%上昇し、前月から-0.2%ポイント下落し、2 カ月ぶりの減速。また、生産者物価指数(PPI)は同+5.8%で前月から-1.1%ポイント下落し、6 カ月ぶりの減速であった。

消費者物価指数と生産者物価指数の推移(2017 年 11 月まで)

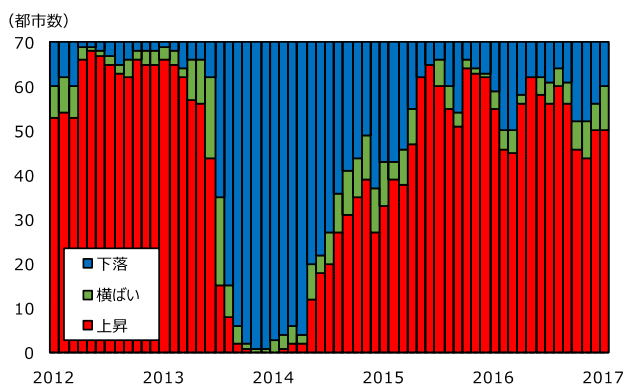


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(7) 不動産市場

11 月の不動産市場は前月からやや回復した。不動産価格(新築住宅価格)を見ると、中国主要 70 都市のうち、上昇した都市数は 50 で前月と同水準。一方、下落した都市数は 10 で前月(14)から減少。また、横ばいの都市数は 10 で前月(6)から増加した。

新築住宅価格の主要都市集計 (2017 年 11 月まで)



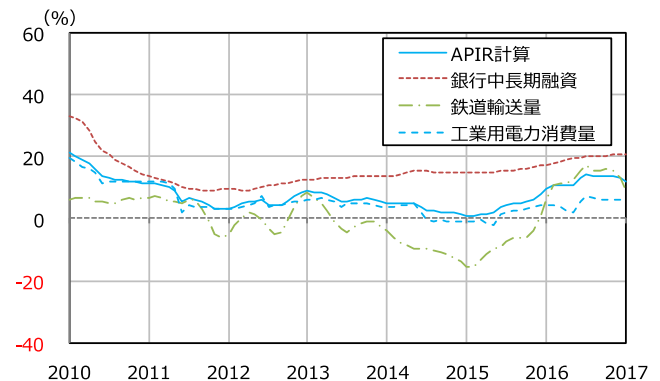
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(8) リコノミクス指数

10 月のリコノミクス指数(APIR 試算)は前年同月比+11.7%と前月から-1.2%ポイント下落し、3 カ月連続の悪

化。内訳をみると、銀行中長期融資は同+20.5%となり、伸びは前月から-0.1%ポイント下落し、2015 年 12 月以来、22 カ月ぶりの減速。鉄道輸送量は同+8.9%と、伸びは前月から-4.3%ポイント下落し、3 カ月連続の減速。工業用電力消費量は同+5.8%と、前月から-0.3%ポイント下落し、6 カ月連続で減速している。

APIR 試算のリコノミクス指数とその内訳(2017 年 10 月まで)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

Contact : 木下祐輔・生田祐介・Cao Thi Khanh Nguyet・馬騰

Tel. 06-6485-7694

E-mail. contact@apir.or.jp

【主要月次統計】

月次統計	16/11M	16/12M	17/1M	17/2M	17/3M	17/4M	17/5M	17/6M	17/7M	17/8M	17/9M	17/10M	17/11M
景況感													
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	52.1	54.4	50.9	50.1	48.3	47.9	50.1	51.7	52.1	50.6	50.8	53.5	55.7
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	51.0	50.0	49.8	50.6	48.6	49.7	51.5	51.9	49.2	50.0	49.3	55.7	52.4
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	51.4	51.4	49.8	48.6	47.4	48.1	48.6	50.0	49.7	49.7	51.3	52.2	55.1
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	51.3	50.9	49.4	50.6	48.1	48.8	49.6	50.5	50.3	51.1	51.0	54.9	53.8
消費者心理・小売													
[関西]消費者態度指数(原数値)	39.7	41.3	42.2	41.7	43.1	43.1	43.0	43.2	43.2	43.2	43.1	43.6	43.8
[関西]「暮らし向き」(原数値)	38.0	39.5	41.4	40.2	41.4	41.2	42.0	41.3	41.0	41.0	41.7	41.7	41.9
[関西]「収入の増え方」(原数値)	39.6	39.2	40.5	39.7	41.0	41.4	42.4	41.6	41.2	41.8	41.8	41.8	41.9
[関西]「雇用環境」(原数値)	41.1	44.4	44.7	44.8	46.9	47.9	46.4	47.9	47.6	47.6	45.9	47.9	48.2
[関西]「耐久消費財の買い時判断」(原数値)	39.9	42.1	42.3	42.2	42.9	41.8	41.3	41.8	42.9	42.5	42.8	43.0	43.3
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	41.1	43.0	43.1	43.2	43.9	43.2	43.6	43.3	43.8	43.3	43.9	44.5	44.9
[関西]大型小売店販売額(10億円)	323.8	406.5	330.9	286.6	313.8	304.4	309.0	304.9	339.1	305.4	293.8	310.3	UN
[関西]大型小売店販売額(前年同月比、全店)	-1.0	-1.4	-0.6	-1.2	-1.4	0.4	-0.5	0.3	-0.1	0.8	3.4	-0.2	UN
[全国]大型小売店販売額(10億円)	1,647.9	2,067.6	1,674.3	1,449.3	1,631.1	1,558.3	1,588.1	1,569.4	1,717.9	1,565.5	1,496.8	1,588.9	UN
[全国]大型小売店販売額(前年同月比、全店)	-0.1	-1.2	-1.0	-2.6	-0.9	0.8	-0.6	0.1	-0.2	0.7	1.8	-0.5	UN
住宅・建設													
[関西]新設住宅着工(戸数)	12,257	11,079	11,409	10,639	11,795	11,812	11,115	12,002	12,601	11,790	11,354	12,164.0	UN
[関西]新設住宅着工(前年同月比%)	3.2	0.5	7.8	-4.0	-0.4	-9.5	4.1	-5.4	-3.3	1.8	-0.7	-1.5	UN
[全国]新設住宅着工(戸数)	85,051	78,406	76,491	70,912	75,887	83,979	78,481	87,456	83,234	80,562	83,128	83,057.0	UN
[全国]新設住宅着工(前年同月比%)	6.7	3.9	12.8	-2.6	0.2	1.9	-0.3	1.7	-2.3	-2.0	-2.9	-4.8	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	73.7	72.7	81.2	76.5	70.9	78.3	76.4	77.9	70.2	79.8	76.5	74.5	76.4
[関西]マンション契約率(原数値)	75.4	69.2	75.1	74.5	73.3	78.2	79.9	80.2	73.6	80.0	74.5	74.2	77.7
[全国]マンション契約率(季節調整値)	61.3	79.6	63.7	67.2	64.0	66.5	79.3	65.0	67.4	69.8	65.6	65.4	66.5
[全国]マンション契約率(原数値)	62.5	76.6	61.6	68.4	66.2	66.3	79.9	67.2	71.9	68.2	64.9	60.7	67.9
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	75.4	95.8	60.9	68.1	118.1	201.8	147.3	122.4	120.3	102.7	139.4	129.9	85.4
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比%)	-11.7	-1.5	-5.4	-14.9	-6.2	-27.8	20.0	-29.2	-31.3	-24.7	-8.1	11.7	13.2
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	822.0	851.4	699.7	769.3	1,485.9	2,064.6	1,242.1	1,518.5	1,288.8	1,149.4	1,319.1	1,171.2	863.3
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比%)	-5.7	5.3	7.1	10.4	10.9	1.7	8.5	-0.6	-5.4	-7.9	-10.4	3.9	5.0
[関西]建設工事(総合、10億円)	597.5	599.1	589.8	583.1	557.2	470.9	4,651.4	483.7	500.3	516.6	537.0	547.9	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比%)	8.7	5.7	6.6	5.7	7.1	3.9	3.0	1.5	0.8	-2.6	-2.7	-5.6	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	4,767.6	4,795.4	4,727.3	4,636.8	4,607.2	3,902.3	3,903.1	4,095.9	4,241.2	4,471.7	4,689.1	4,902.6	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比%)	1.5	1.6	2.8	2.9	4.5	9.1	10.5	9.0	7.5	6.8	4.1	4.2	UN
[全国]建設工事(公共工事、10億円)	2,034.4	2,068.4	2,049.1	2,008.4	2,036.8	1,450.6	1,428.6	1,505.1	1,568.4	1,711.7	1,876.0	2,043.9	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比%)	-4.6	-4.3	-2.1	-1.2	1.7	6.4	10.3	7.7	6.1	5.3	1.4	2.2	UN
生産													
[関西]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	107.6	109.5	105.8	108.0	107.7	110.2	105.7	108.1	106.7	110.9	103.4	106.0	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	2.0	1.8	-3.4	2.1	-0.3	2.3	-4.1	2.3	-1.3	3.9	-6.8	2.5	UN
[関西]「出荷指数」(原数値、前年同月比%)	9.1	6.0	3.7	4.2	0.9	4.6	3.8	5.4	2.3	6.2	-3.6	0.2	UN
[関西]「在庫指数」(原数値、前年同月比%)	-7.1	-5.1	-2.7	-2.6	-1.0	3.0	3.0	1.4	3.7	3.6	2.9	7.8	UN
[関西]「出荷指数」(季節調整値、10年=100)	106.1	106.3	101.3	103.6	105.2	106.2	103.3	106.0	103.7	107.9	100.5	102.3	UN
[関西]「出荷指数」(季節調整値、前月比)	2.1	0.2	-4.7	2.3	1.5	1.0	-2.7	2.6	-2.2	4.1	-6.9	1.8	UN
[関西]「在庫指数」(季節調整値、10年=100)	110.0	112.1	115.1	115.5	117.5	122.9	124.3	122.0	122.9	124.0	124.3	124.8	UN
[関西]「在庫指数」(季節調整値、前月比)	-5.0	1.9	2.7	0.3	1.7	4.6	1.1	-1.9	0.7	0.9	0.2	0.4	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	99.9	100.6	98.5	101.7	99.8	103.8	100.1	102.3	101.5	103.5	102.5	103.0	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	1.0	0.7	-2.1	3.2	-1.9	4.0	-3.6	2.2	-0.8	2.0	-1.0	0.5	UN
[全国]「出荷指数」(原数値、前年同月比%)	5.0	2.4	4.2	3.7	3.5	4.9	5.4	5.3	4.1	5.8	1.5	2.7	UN
[全国]「在庫指数」(原数値、前年同月比%)	-5.5	-5.3	-5.0	-3.9	-4.0	-1.1	-1.3	-2.9	-2.3	-2.9	-2.4	2.0	UN
[全国]「出荷指数」(季節調整値、10年=100)	98.9	98.9	97.8	99.2	98.4	101.1	98.2	100.7	100.0	101.8	99.3	98.9	UN
[全国]「出荷指数」(季節調整値、前月比)	1.0	0.0	-1.1	1.4	-0.8	2.7	-2.9	2.5	-0.7	1.8	-2.5	-0.4	UN
[全国]「在庫指数」(季節調整値、10年=100)	106.6	107.3	107.4	108.1	109.7	111.3	111.3	109.1	107.9	107.3	107.3	110.7	UN
[全国]「在庫指数」(季節調整値、前月比)	-1.8	0.7	0.1	0.7	1.5	1.5	0.0	-2.0	-1.1	-0.6	0.0	3.2	UN
労働													
[関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比%)	-0.6	1.2	0.2	-0.1	0.6	0.4	0.7	1.9	0.2	1.4	2.1	UN	UN
[関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比%)	-0.3	0.6	-0.1	-0.4	0.5	-0.1	0.6	1.6	0.3	1.6	2.2	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比%)	0.5	0.5	0.3	0.4	0.0	0.5	0.6	0.4	-0.6	0.7	0.9	0.2	UN
[関西]完全失業率(季節調整値)	3.3	3.3	2.7	3.2	3.2	3.0	3.3	3.0	3.0	2.7	3.0	2.8	UN
[関西]完全失業率(原数値)	3.0	2.9	2.8	3.3	3.2	2.9	3.2	3.0	3.1	2.9	3.2	2.8	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	3.1	3.1	3.0	2.8	2.8	2.8	3.1	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	2.12	2.14	2.05	2.08	2.04	2.11	2.39	2.20	2.23	2.26	2.22	2.41	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	2.15	2.19	2.13	2.12	2.13	2.13	2.31	2.25	2.27	2.21	2.26	2.36	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	1.33	1.34	1.34	1.35	1.36	1.41	1.44	1.46	1.47	1.47	1.46	1.49	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.41	1.43	1.43	1.43	1.45	1.48	1.49	1.51	1.52	1.52	1.52	1.55	UN
国際貿易													
[関西]純輸出(10億円)	75.7	289.0	-193.8	356.5	222.8	175.0	92.8	170.7	136.4	162.3	250.5	161.6	163.8
[関西]輸出(10億円)	1,251.1	1,418.9	1,090.9	1,353.4	1,476.8	1,335.6	1,239.8	1,383.9	1,329.4	1,382.4	1,482.4	1,425.5	1,520.2
[関西]輸出(前年同月比%)	1.1	6.0	-1.7	12.8	10.4	5.9	12.4	8.0	10.8	17.4	17.3	14.4	21.5
[関西]輸入(10億円)	1,175.4	1,129.9	1,284.7	996.9	1,254.0	1,160.6	1,146.8	1,213.2	1,193.0	1,220.1	1,231.9	1,263.9	1,356.4
[関西]輸入(前年同月比%)	-7.2	-3.6	9.6	-6.0	12.3	11.2	13.4	14.4	16.8	12.7	11.1	20.7	15.4

注：鉱工業生産 輸送機械工業は鋼船・鉄道車両除く。

Release Calendar for November/December

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
27-Nov	28-Nov 商業動態調査 (10月:速報値)	29-Nov 全国貿易統計 (10月:確速)	30-Nov 求人倍率(10月) 完全失業率(10月) 全国鉱工業生産指数 (10月:速報値) 新設住宅着工(10月) 中国製造業 PMI (11月)	1-Dec
4-Dec 消費動向調査(11月)	5-Dec	6-Dec	7-Dec	8-Dec 景気ウォッチャー調査 (11月) 毎月勤労統計 (10月:速報値) 中国輸出入 (11月:速報値)
11-Dec 商業動態調査 (10月:確報値) 中国消費小売総額 (11月) 中国 PPI & CPI (11月) 近畿鉱工業生産指数 (10月速報) 近畿貿易統計 (9月確報) 近畿貿易統計 (10月確速)	12-Dec	13-Dec	14-Dec 全国鉱工業生産指数 (10月:確報値) マンション契約率 (11月) 中国工業生産(11月) 中国固定資産投資 (11月) 中国不動産市場 (11月)	15-Dec 建設総合統計(10月) 公共工事前払保証額 統計(11月)
18-Dec 全国貿易統計 (11月:速報) 近畿貿易統計 (11月速報)	19-Dec	20-Dec 出入国者数(11月)	21-Dec	22-Dec 毎月勤労統計 (10月:確報値)
25-Dec 近畿鉱工業生産指数 (10月確報) 出入国管理統計(10月) 中国輸出入 (11月:確定値)	26-Dec 求人倍率(11月) 完全失業率(11月) 新設住宅着工(11月)	27-Dec 商業動態調査 (11月:速報値) 全国貿易統計 (11月:確速)	28-Dec 全国鉱工業生産指数 (11月:速報値)	29-Dec